

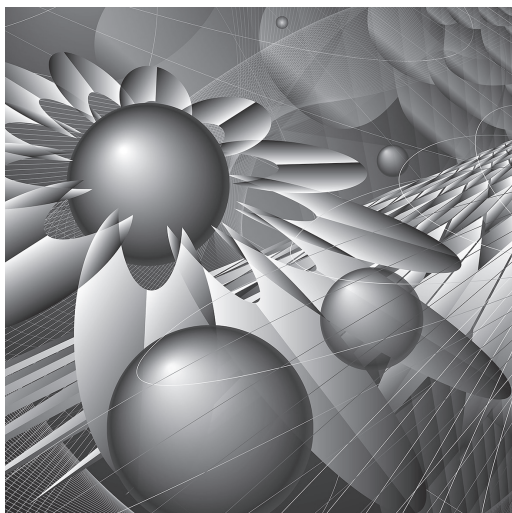
# 「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者インタビュー

## 「技能と技術」誌 編集事務局

### 1. はじめに

本誌では、例年、本誌に対する意識の高揚とデザイン教育の振興を目的とし表紙デザインコンテストを開催しています。本コンテストは、全国の職業能力開発施設のデザイン系学科の方を対象とし公募しております。応募いただいた中から厳正なる選考をし、最も優秀と評価された作品が、翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。

本年度の表紙デザインコンテスト（令和5年10月開催）では、秋田県立大曲技術専門校色彩デザイン科の菅原涼介さんの作品が最優秀賞に選出され、本誌第4号（令和5年12月発行）にて発表したところです。



令和6年「技能と技術」誌表紙デザイン  
最優秀賞作品

本誌編集事務局は、同校を訪問し、最優秀賞作品を生み出した背景や受賞の感想について、菅原さんおよび指導担当の先生方にインタビューを行いましたので報告します。

### 2. 秋田県立大曲技術専門校 色彩デザイン科

同校は、昭和20年に秋田県建築工補導所大曲分所として現在の秋田県大仙市に発足しました。その後、数回に渡る秋田県南部の同様施設の統廃合を経て、平成17年に同地区の職業能力開発拠点施設として移転し、現在に至ります。主に高卒者等を対象とした普通職業訓練を実施しており、普通課程4科を設置し、2年間の訓練を行っています。多様化・高度化の著しい企業ニーズを踏まえ、産業界が求める実践的な技能者・技術者の育成を目標とし、多くの修了生が県内企業で活躍しています。



秋田県立大曲技術専門校の外観

設置している4科は「機械システム科」「電気システム科」「建築施工科」「色彩デザイン科」であり、それぞれのものづくりの特長を活かして、毎年

4科合同で作品づくりを行っています。この企画を通じて、訓練生の技能・技術の向上はもちろん、他科との交渉力やコミュニケーション能力の向上が図られます。



4科合同作品

菅原さんが学んでいる色彩デザイン科は、昭和62年に専修訓練課程の塗装科として発足し、平成17年の施設移転に伴い普通課程の塗装系建築塗装科を基準科として誕生しました。建築物・自動車・木工品等いろいろな対象物に応じた塗装の知識や技術の習得を中心に、パソコンでのデザインや配色計画、木材やFRPを素材とした製品の製作等ができる実践的技術者を目指し、訓練を行っています。修了生は、塗装業（建築・路面標示・自動車板金・金属）、広告美術・印刷業、内装業、木工業等で活躍しています。



実習作品

デザインのカリキュラムでは、建築塗装作業の配色計画やカスタムペインティングのデザイン、看板等のデザインや施工を行います。その他にも同校イ

ベント等のポスター、入校案内、地域活動のリーフレット等の制作依頼にも協力しています。実践的な課題をこなすことで、クライアントの要望を的確に把握し、自分のアイデアを形にする創造力が身についていきます。自分のものづくりに対する姿勢が、どのような影響を周囲に及ぼすのかを体感できる機会でもあり、この体験は将来の職業人として大事な学びになります。



校イベント・制作依頼 採用作品（菅原さん作）

### 3. 受賞者インタビュー

本年度の表紙デザイン募集には全国から96点の応募があり、厳正なる審査の結果、菅原涼介さんの作品が最優秀賞に選出されました。

訪問当日には、ご多用の中、佐々木校長をはじめ、色彩デザイン科の木村班長、小森先生、渡邊先生にもご出席いただき、校長室をお借りし、ささやかながら表彰式を行わせていただきました。



左から木村班長、佐々木校長、最優秀賞の菅原さん、渡邊先生



ーはじめに「技能と技術」誌や表紙デザインコンテストはご存じでしたか？

「技能と技術」誌は、この専門校に入って初めて知りました。

ー表紙デザインに応募したきっかけは？

授業の一環で応募しました。同じクラスの仲間とは、作業中の作品をお互いに見て回ったり、割とみんな自由に意見があったりしていました。隣の席には、昨年の表紙デザインで佳作を取った人がいて、その人とも意見を交わしました。

ー最優秀賞を知ったときの率直な感想を教えてください。

他の訓練生がいる場で受賞を知り、みんなで喜びを分かちあいました。先生方も喜んでくださり良かったと思いました。今回の受賞が人生で初の1位でした。



インタビュー風景

ー作品のイメージは？

太陽のイメージから発展させ、表現に羽ばたきの羽をレイアウトしました。球体を中心に、羽のレイアウトと遠近感を工夫し制作しました。

ーこの作品を作る上で大変だった点を教えてください。

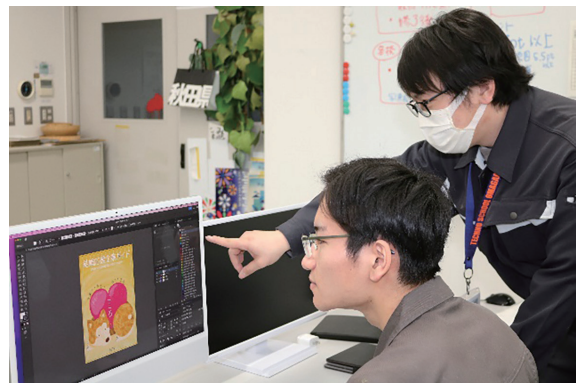
今年の猛暑期間に、他の作品製作と並行し、表紙デザインの作業もしていたため、時間の制約があり大変でした。塗装の課題との並行作業だったので、作品を乾燥している時など、時間を見つけ、表紙デザインの作業を進めました。

ー受賞してからの心境の変化はありましたか？

美術大学附属の高校に通っていたので、そのころからデザインを学んでいました。これまで学んだこと、頑張ってきたことが最優秀賞の評価につながったと思うと、頑張ってきて良かったなと思いました。

ー元々、デザインを学んだりグラフィックソフトを使われていたのですか？

高校ではビジュアルデザイン科に属していて、ソフトの使用歴がありました。部活では美術部絵画部門に所属しており、油絵やアクリル画での秋田県高等学校総合美術展 推奨受賞（3回）等の受賞履歴がありました。



実習風景

ー秋田県立大曲技術専門校 色彩デザイン科に入校したきっかけは？

将来を見据えた時に、これまで学んだデザインの基礎的な知識を活かしつつ、技術で稼げる道があると知り、入校を決めました。

ー学校生活はどうですか？

実習では高校で学んだ知識を生かし、取り組んでいます。いろいろ実践的な技術が身についたと感じています。どの実習も楽しいです。

訓練生数に対して、先生方の人数が多く、木村班長は工芸塗装や板金塗装、渡邊先生は建築塗装、小森先生は木工、小松先生は材料の知識が豊富といったように、いろんな知識を持っている先生方が一心にサポートしてくれているので、そういった事が技術を身につける後押しになっていると感じています。

一次に、「技能と技術」誌の表紙デザインを作り上げていくコンセプト設定やプロセスについて伺います。作品を作り上げていくプロセスや作業の中で感じたこと・工夫したことは？

まずコンセプトを決め、ラフスケッチで案を出しました。その後、一つのモチーフをコピーアンドペーストで増やし、遠近感を出すために変形させたり、レイアウトを頑張りました。球体をレイアウトした後、さまざまなタイプの羽のモチーフを生み出すことが楽しかったです。イラスト等を使ったポスター作品の応募と違って、感覚に頼って作っていくものだと思うので、中学、高校での美術の経験が生かされたと思います。

「アートの要素があるため、訓練生に自由に制作してもらいました。必要な訓練生に、バランス等を指導した程度です。」(小森先生談)



製作実習作品（菅原さん作）

—最後に菅原さんから一言お願いします。

今回は最優秀賞をいただいたことで、自分の感性を評価してもらえた気がしてうれしかったです。今後も、ものづくりに携わっていく上で、デザイン的な感性は必要だと思います。完成してこそゴールだと思うので、これからもゴールを目指し、誠実にものづくりと向き合っていきたいと思います。大切なことは基礎練習を繰り返すことだと思います。基礎を繰り返すことで、作業スピードが上がったり、最終的な仕上がりにも直結すると思います。これからもそこは大事にしたいと思います。

#### 4. おわりに

秋田県立大曲技術専門校では、充実した訓練内容に、専門的な技術の高い先生方の指導のもと、訓練生の皆さんが伸びやかに技術を習得されている様子がうかがえました。佐々木校長はじめ、先生方の温かい雰囲気もその一因に感じました。訓練生活で得たものと、これまで菅原さんが培ってこられた感性や技術が合わさり、今回の受賞につながったように思えました。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき誠にありがとうございました。